

折に触れ 四字熟語

NO. 302 『管窺蠡測』 かんき れいそく

< 意味 > きわめて見識の狭いたとえ。また、非常に狭い見識や理解で大事をはかるたとえ。「かん管もてうかが窺いれい蠡もてほか測る」と訓読する。

< 出典 > 『文選』東方朔「客の難するに答う。「かん筥を以て天を窺い、かん蠡を以て海を測る」

語 積：「管窺」は細い管を通して大きな天を見ること。古く『莊子』そうじ秋水にも「用管窺天（管を用て天をうかが闚う）」の句がある。「闚」は「窺」に同じ。「蠡測」は小さなひさごで大きな海の水をはかること。略して「管蠡」ともいう。「管」は「筥」とも書く。

一 言： 円安の影響もあってか最近では若者が留学などで国外に出て行かない傾向にあると報道されています。若者が日本国内に留まり、世界に向けて視野を開こうとしないということは、正しく「管窺蠡測」にならないでしょうか心配です。

参照文献： 岩波書店「四字熟語辞典」